

もくじ

この本を読むみなさんへ…… 2

この本の特徴…… 3

これで完ぺき! 調べ学習の進め方…… 4

1章 発表の原稿をつくらう

原稿づくりの基本をマスターしよう…… 10

やってみよう…… 11

原稿を書いてみよう…… 12

つくり終わった原稿を見直そう…… 16

質問の準備をしておこう…… 18

発表のリハーサルをしよう…… 20

グループ発表編…… 22

2章

いよいよ発表本番!

聞きやすい話し方をマスターしよう…… 26

発表は緊張するのが当たり前…… 30

質問に答えよう…… 32

発表を終えたらふり返ろう…… 34

やってみよう…… 35

友だちの発表を聞くことも大事…… 36

Column 発表スキルはこんな場面で役に立つ!…… 38

さくいん…… 39

この本に出てくるキャラクター



おしゃべり好きな女の子。スピーチやインタビューならおまかせ!

私たちがナビゲートします!



考えを整理したり、情報を分析したりするのが得意なようせい。



いつでもどこでもメモを取る、メモ魔の男の子。きれいな字を書くのがじまん。

！ 原稿のポイント ~スライド資料編~

スライド資料を見せながら発表するときにも原稿を用意します。資料はあくまでも相手に見せるためのもの。資料に合わせて口頭でどのような説明を加えていくかが大切です。原稿はスライドごとにつくりましょう。

※プレゼン用ソフトウェアの多くは、スライドごとに原稿をメモできる機能が付いています。

スライド資料と「あなたこ」のキーワードに沿って、原稿を完成させよう



スライド 1

わたし いのち まも
「私たちの命を守る
AED」
エーイーディー
AED」

〇年〇組 〇〇〇〇

原稿の例

〇年〇組〇〇〇〇です。今回、私は「身近にあるAED」について調べてきたので、発表したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします！

Point

最初のテーマ発表は、大きな声でハキハキと。前にいるみんなのほうを見て話そう。

スライド 2

1 調べたきっかけ

2 調べた方法

3 調べた結果

4 結論・まとめ・考察

原稿の例

それでは、こちらが今日の発表の流れです。

Point

ここは見せるだけなのでゆっくり話そう。言い終わって1秒ほどしたら、次のスライドに移ろう。

スライド 3

調べたきっかけ

スイミングスクールでAEDを見かけ、ほかにどんな場所にあるのか気になったから。



原稿の例

私がAEDを調べようと思ったきっかけは、通っているスイミングスクールにAEDが置いてあるのを見つけたことでした。……(中略)そして身近な場所のどんなところにAEDが置いてあるのか調べてみたいと思いました。

Point

一文を短くすることで、出来事ひとつひとつが頭に残り、ていねいな説明になる。

スライド 4

調べた方法

① 駅などにあるAEDを撮影。
② 見つけた場所は地図にマーク。



原稿の例

調べるときに使ったものは、地図とスマホです。駅やショッピングモール、図書館など、家の近くの公共施設を回って、AEDを撮影しました。見つけた場所を記録するために、地図にAEDのマークを付けていきました。

Point

行った場所など具体的な名前を出すと、実際のイメージがわかりやすい。

スライド 5

調べた結果



原稿の例

その結果出来上がったのが、このAEDマップです。駅の周りだけでも7か所あります。探してみるまで気がつきませんでした。思っていたよりとてもたくさんのAEDが設置されていることがわかりました。

Point

具体的な数字を伝えるなど、スライドを見るだけではわからない部分も補おう。

スライド 6

結論・まとめ・考察

もしものために、一人一人がAEDのことをもっと知っておくことが大切。

みんなで広めていきましょう。

原稿の例

AEDはひとつあるだけで、大切なだれかの身に何かあったときに助けることができる便利な機械です。AEDがどこにあるか、一人一人が知っておいてもらえるといいなと思いました。

Point

スライドで書いたことをそのまま読むのではなく、自分の言葉を使って、一番伝えたいことをまとめよう。



聞きやすい話し方を マスターしよう

発表の出来ばえは、話し方ひとつで大きく変わります。
最も大事なものは、聞いている人全員に届ける気持ちで話すことです。

胸を張って ハキハキ話そう

発表はここまで調べてきた内容の集大成の時間です。「情報を知らない人に教えてあげよう」「自分の考えを知ってほしい」という気持ちで本番に向きましょう。ただし、人前で話すのが苦手だと、どうしても声が小さくなってしまふもの。これではせっかく良い発表をしていてもうまく伝わりません。まずは、自信がないからといって下を向かず、顔を上げて前を見ること。背筋をのばして胸を張ると、聞き手にも伝わる大きな声が出せます。



！ 大きな声で話すためのコツ

大きな声とは、がむしゃらに大きな声を出そうとするものではありません。聞き取りやすくして大きな声を出すには、コツがあります。リハーサルでも実践してみましょう。

➤ 最初のひと言を大きく

最初のひと言を大きく発音してみましょう。出だしに大きな声が出ると、そのあとも自然とハキハキとした口調で話し続けられます。

➤ 前を向いて

下を向いてしまうと話が聞き取りにくく、表情も見えません。はずかしがらずに前を向き、聞き手に言葉をしっかり届けましょう。

➤ 遠くに届けるように

一番後ろの席にいる人にまで声を届けるように意識してみましょう。自然と顔が上を向き、大きな声が出しやすくなります。

➤ 語尾まではっきり

出だしの声が大きくても、語尾に向かって小さく聞き取りにくくなる場合があります。語尾まで気をぬかず、はっきり発音しましょう。

聞き取りやすい 速さとテンポ

自分ではいつも通りのつもりでも、緊張したり話に集中してしまったりすると、無意識に早口になってしまいがち。そうすると、聞いている人にとっては言葉が聞き取りづらく、理解も追いつかなくなってしまいます。自分が思っているよりもゆっくり話すことを意識しましょう。

また、強調したい言葉の前後は1秒程度、ひと呼吸空けましょう。「間」をつくと印象に残りやすくなります。

例

みなさんはオリンピックのシンボルマークが、なぜ5つの輪なのか知っていますか？（ひと呼吸）じつはこの形にはいくつかの意味がこめられています。（ひと呼吸）ひとつめは、5つの輪が世界の5大陸を象徴していること、（ひと呼吸）ふたつめは……。



ゆっくり話すには

➤ 句読点で止まる

文章の「、」や「。」のところで軽く止まりましょう。そうすることで早口にならず、全体のテンポが速まるのを防げます。

➤ 専門家になったつもりで

調べたテーマについての専門家になったつもりで、相手にじっくり聞かせるような意識で話してみましょう。しっかり調べてきたテーマなら、自信を持てるはず！

上級編

聞いている人の心をつかむには

➤ 聞き手の反応を見る

話題が次に移るときなどに、話を止めて聞き手の反応を見ましょう。時間がある場合は「ここまでで何かわからないことはありますか？」などと、聞いてみても良いでしょう。余裕があれば反応に合わせて呼びかけを行いましょう。

いちばん大切なことは「伝えたい！」という気持ちだよ

